

中越大震災における活動経過

年月日	活 動 内 容
16.10.23	中越大震災発生 ・被災地の動物病院では、地震発生直後から緊急診療や被災動物の一時預かりが、余震が続く中で行われた。
10.26	小千谷市内の動物病院の依頼により、蒲原支部会員が一時預かり動物の緊急搬出を行い、県動物保護管理センター(以下「動管センター」)に搬入
10.27	緊急災害時被災動物救済本部と新潟県は、「中越地震被災動物救済仮本部」を本部内に設置 県獣は、被災動物の応急手当などに対する補助(無料診療)を開始(期間:11月10日まで) 動物救護活動義援金の口座窓口を日本獣医師会の協力得て開設
10.28	新潟県は、山古志村に取り残された動物のヘリコプターによる救出を開始 県獣は、新潟県動物薬品器材協会の協力を得て、医薬品、ペットフード等の救援物資を動管センター及び動物病院に供給開始
10.31	県獣は、小千谷市に調査員を派遣し、被災者から動物飼育状況などの聞き取り調査を実施
11.1	県獣は、小千谷市総合体育館に新潟県動物愛護協会と協力し、「小千谷地区動物救護窓口」を設置 小千谷市内に自衛隊による動物と一緒に暮らせるテント村が設置 県獣内に、「新潟県獣医師会新潟県中越地震動物救護対策本部(以下「救護対策本部」)」を設置
11.2	山古志村に取り残された牛約1,000頭の救出がヘリコプターを使って行われた。
11.3	小動物臨床部会が、緊急シンポジウム「災害時の動物救護における獣医師の役割」を開催
11.5	長岡市新産体育館で被災者が動物と一緒に暮らせる「ペットハウス」を開設(12月4日まで)
11.9	第2回救護対策本部会議の開催(本部における動物救護活動を協議)
11.17	動管センターに収容できない被災動物の一時保管を県内の動物病院で開始
11.22	救護対策本部第1回班長会議を開催(仮設住宅への対応を協議)
11.24	仮設住宅への入居開始に伴い、新潟県及び新潟県動物愛護協会との連名で「仮設住宅における動物飼育のポイント」を配布
12.2	仮設住宅の入居動物及び一時保管動物の混合ワクチンの無料接種を開始
12.9	救護対策本部第2回班長会議を開催(一時保管動物の治療費、被災動物の避妊・去勢への助成について協議)
17.1.12	第3回救護対策本部会議の開催(救護活動に対する義援金の支出について)
17.1.19	「中越地震被災動物救済仮本部」を新潟県、新潟県獣医師会、新潟県動物愛護協会及び緊急災害時動物救済本部事務局の4者で構成する「新潟県中越大震災動

	<p>物救済本部」に移管</p>
17. 3. 4	<p>第4回救護対策本部会議を開催(義援金の支出について)</p>
3. 29	<p>平成16年度第2回通常総会において「義援金の支出について」議案提出、承認される。</p>
5. 18	<p>県獣会長名で一時保管協力動物病院あて「中越地震被災動物の一時保管について(本部事業としての動物病院における一時保管は5月末日をもって終了し、6月1日からは、新潟県と新潟県獣医師会の事業として再出発することとして、改めて一時保管の協力病院の登録を要請)」の文書を発送</p>
5. 24	<p>第5回救護対策本部会議の開催(本部の決算報告と解散について)</p>

活動状況報告

1 被災動物の救護治療

10月27日会員あて「動物病院に依頼のあった被災動物のうち、救急的な応急手当を行った動物の診療費を免除する」旨通知し、後日、実績報告を求めるとし、その費用を義援金に依ることとしたが、対応に当たった動物病院のほとんどが被災者であり、ライフラインの断絶、カルテの飛散、従業員の被災による人手不足等混乱の中で負傷動物等の治療に当たり、また、その治療費についても割引や無料での対応がなされており、その後の継続治療等各動物病院における負担額は大きく、その正確な報告を収集することは困難であった。このため、義援金の趣旨については、救急的な応急手当に限らず、被災動物の救護治療としてその用途を拡大するとともに、その治療費の割引及び免除額を推定し、被災地の各支部にその額を配分することとし、新潟県獣医師会の平成16年度第2回通常総会(平成17年3月29日開催)に諮り承認された。

別紙被災動物への救護治療費の配分方法により算定した額を、次の5支部に配分した。

支部名	配分額(円)
中央支部	33,893
蒲原支部	866,735
中越支部	7,491,192
魚沼支部	4,566,995
上越支部	25,107
計	12,983,922

2 現地相談窓口等の設置

(1) 被災地における聞き取り調査

被災動物の救護対策に役立てるため、被災地で聞き取り調査を実施した。

・期 日:10月31日(日) ・場 所:小千谷市の避難所12か所 ・調査者:新潟支部ほか8名

・調査対象:動物飼育者 61世帯(動物飼育数:犬51、猫14、その他9)

・調査結果

被災時、ペットをどうしましたか ()内は%

迷わず避難所へ連れてきた	36(59.0)
避難所の様子を見てから連れてきた	4(6.6)
自宅へ置いてきた	14(23.0)
行方不明	6(9.8)
その他	1(1.6)

避難所でペットはどのように暮らしていますか ()内は%

飼い主と同居(ケージ飼育)	4(6.6)
避難所の廊下など	1(1.6)
避難所の屋外	4(6.6)

車の中	5 (8.29)
屋外のテント	33 (54.1)
その他	10 (16.4)

これからペットとどのように暮らしたいですか ()内は%

避難所で一緒に暮らしたい	47 (77.0)
無料であれば動物救護センターに預けたい	12 (19.7)
その他	1 (1.6)

(2) 小千谷地区動物救護窓口の設置

小千谷市総合体育館の敷地内にテントを設置し、健康相談、応急処置、情報提供等を実施するとともに、小千谷市内及び川口町の他の避難所を巡回し同様に実施した。

・設置期間: 11月1～11月21日

救護活動状況

参加者・獣医師 (AHT)	相談件数 (窓口)	相談件数 (避難所巡回)	フード提供数	応急処置	一時預かり件数
88 (55)	181	40	86	8	11

(3) 長岡市新産体育館・ペットハウス

「避難者が動物と一緒に暮らせる」ために、避難所内にテントを設置し、飼主が直接動物の世話ができるペットハウスとして活用した。

・設置期間: 11月5日～12月4日 ・参加者: 獣医師 56名

・一時預かり頭数: 実 11頭(犬 4頭、ねこ 7頭) 延 296頭

3 動物病院における被災動物の一時保管

県動物保護管理センターで収容しきれない被災動物の一時預かりについて、動物救護対策に登録された協力動物病院(53病院)のうち、44動物病院で一時保管を実施した。

	犬	ねこ	計
一時保管総数	36	82	118
うち 返還(飼主)	22	46	68
返還(動管センター)	0	9	9
譲渡	2	13	15
死亡	1	2	3
(保管継続中)	(11)	(8)	(19)

一時保管の引き受けについては、協力病院の中で県内6地区に窓口病院を置き、引き受け病院の割り振りを依頼、保管中の動物には、混合ワクチンの接種、健康診断、猫 FeLV・FIV 検査、犬フィラリア検査、ノミ・ダニの駆除、保管中の疾病治療等を実施した。

4 仮設住宅飼育動物の混合ワクチン接種

仮設住宅で飼育される犬及びねこについて、混合ワクチンの無料接種を行った、
犬 40 頭、ねこ 79 頭 計 119 頭

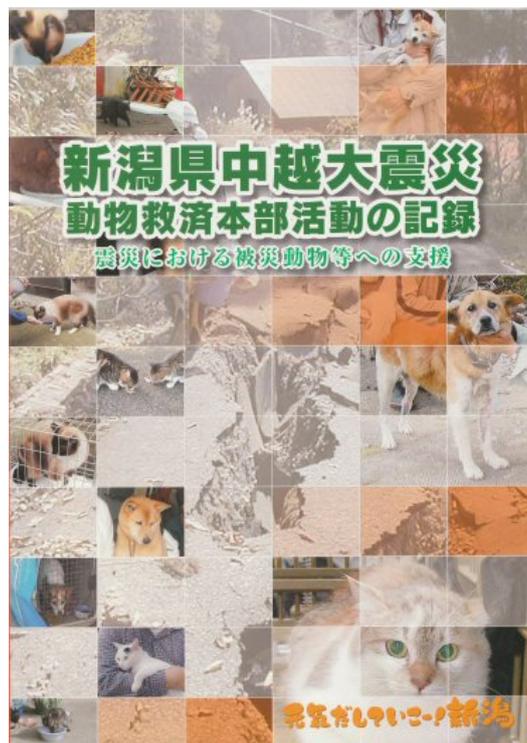
5 山古志村の牛の救出に係る薬品費等の支援

山古志村に取り残された牛約1,000頭の救出に要した薬品・器材費の一部を支援した。

6 動物医薬費等救援物資の供給

新潟県動物用薬品器材協会の協力得て、被災動物救護のための動物用医薬品、医療器材等を
医薬品等関係会社から提供を受け県動物保護管理センター及び県内動物病院等に供給した。

年月日	要請者	提供者	品名	数量	配布先
16. 10.28		大日本製薬(株)	プリスクリプションダイエット a/d 缶	20ケース	被災地動物病院
"		大日本製薬(株)	プリスクリプションダイエット 猫 i/d 缶	20ケース	被災地動物病院
"		日本ヒルズ・コルゲネート(株)	プリスクリプションダイエット a/d 缶	20ケース	被災地動物病院
11. 4	新潟県	日本全薬工業(株)	フロントライン(犬用スプレ-) 250ml	15本	県動管センター (3か所)
11.16	新潟県	ファイザー(株)	猫用混合ワクチン(3種)	100頭分	県動管センター
"	新潟県	ファイザー(株)	犬用混合ワクチン(6種)	100頭分	県動管センター
"	新潟県	(株)微生物化学研究所	犬用混合ワクチン(6種)	100頭分	県動管センター
11.20	新潟県	(株)アグロジャパン	塩酸ドパミン 40mg	1箱	魚沼動管センター
12. 8	新潟県	ノバルティスアニマルヘルス(株)	犬フィリア抗原検出キット	100頭分	中越動管センター
"	新潟県	"	猫白血病・猫免疫不全 感染症診断キット	100頭分	中越動管センター
"	新潟県	アイテックスラボラトリー(株)	ビビテングルコネート液	10本	中越動管センター
"	新潟県	(株)アグロジャパン	ヒビスクラブ 250ml	10本	中越動管センター
12.14	対策本部	(株)微生物化学研究所	犬用混合ワクチン(6種)	100頭分	中越動管センター
"	対策本部	共立製薬(株)	犬用混合ワクチン(5種)	100頭分	魚沼動管センター
"	対策本部	共立製薬(株)	猫用混合ワクチン(3種)	200頭分	中越・魚沼動管
12.22	対策本部	ファイザー(株)	猫用混合ワクチン(3種)	100頭分	県動管センター
"	対策本部	ファイザー(株)	犬用混合ワクチン(6種)	100頭分	県動管センター



『新潟県中越大震災・動物救済本部活動の記録』が刊行されました。
本冊子についての詳細は、(公社)新潟県獣医師会までお問い合わせ下さい。